

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年2月23日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子</p> <p>※金平キャスターは沖縄から中継</p> <p>金城光里（RBC 琉球放送記者、沖縄県民投票を取材）</p> <p>巡田忠彦（記者、イージス・アショアを取材）</p>		
<p>検証テーマ： オープニング、皇太子殿下の誕生日、米朝首脳会談、岩屋防衛大臣が自衛隊の水陸機動団を視察</p> <p>【特集】 沖縄県民投票直前報告、【特集】 独自取材最強のイージス</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング</li> <li>・ 皇太子殿下の誕生日</li> <li>・ 女性に車をぶつける様子がドライブレコーダーに撮影され逮捕</li> <li>・ 東名高速道路の SA で切りつけ事件</li> <li>・ 米朝首脳会談</li> <li>・ 岩屋防衛大臣が自衛隊の水陸機動団を視察</li> <li>・ 熊本地震で寸断された国道のトンネル貫通</li> <li>・ 北海道の壮瞥町で雪合戦の国際大会</li> <li>・ 広島県三次市の公園で熱気球イベント</li> <li>・ 埼玉県で二人暮らしの母親の背中を息子が刺殺</li> <li>・ こども音楽コンクール授賞式</li> <li>・ 伊豆大島でミス椿の女王コンテスト</li> <li>・ 【特集】 沖縄県民投票直前報告</li> <li>・ 【特集】 独自取材最強のイージス</li> <li>・ スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング：結論→特に問題なし <p>番組冒頭で金平キャスターが中継の沖縄から「はい、名護市辺野古にアメリカ軍の新基地を建設することの是非について沖縄の人々が直接意思表示をする、その県民投票を明日に控えた沖縄に来ています。自分とは無関係だと思っておられるかもしれないテレビの前のみなさんが本当は問われている投票でもあります。後ほどの特集でまたこちらからお伝えします。」と述べていた。このシーンに当てられた時間は25秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。</p> </li> <li>・ 皇太子殿下の誕生日：結論→特に問題なし <p>59歳の誕生日を迎え両陛下への挨拶のため皇居を訪れた皇太子さまが誕生日にあたっての記者会見で即位への決意を述べられたとのことと報じられるとともに、会見での皇太子さまの「国民に常に寄り添い、人々とともに喜び、あるいはともに悲しみながら象徴としての勤めを果たしてまいりたいと思います。」「その時代時代で新しい風が服用に皇室のあり方もその時代時代によって変わってくるものと思います。」「体調には波もありますの</p> </li> </ul>		

で雅子には引き続き焦ることなく少しずつ活動の幅を広げて行ってほしいと願っております。」というコメントが取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は 171 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米朝首脳会談：結論→特に問題なし

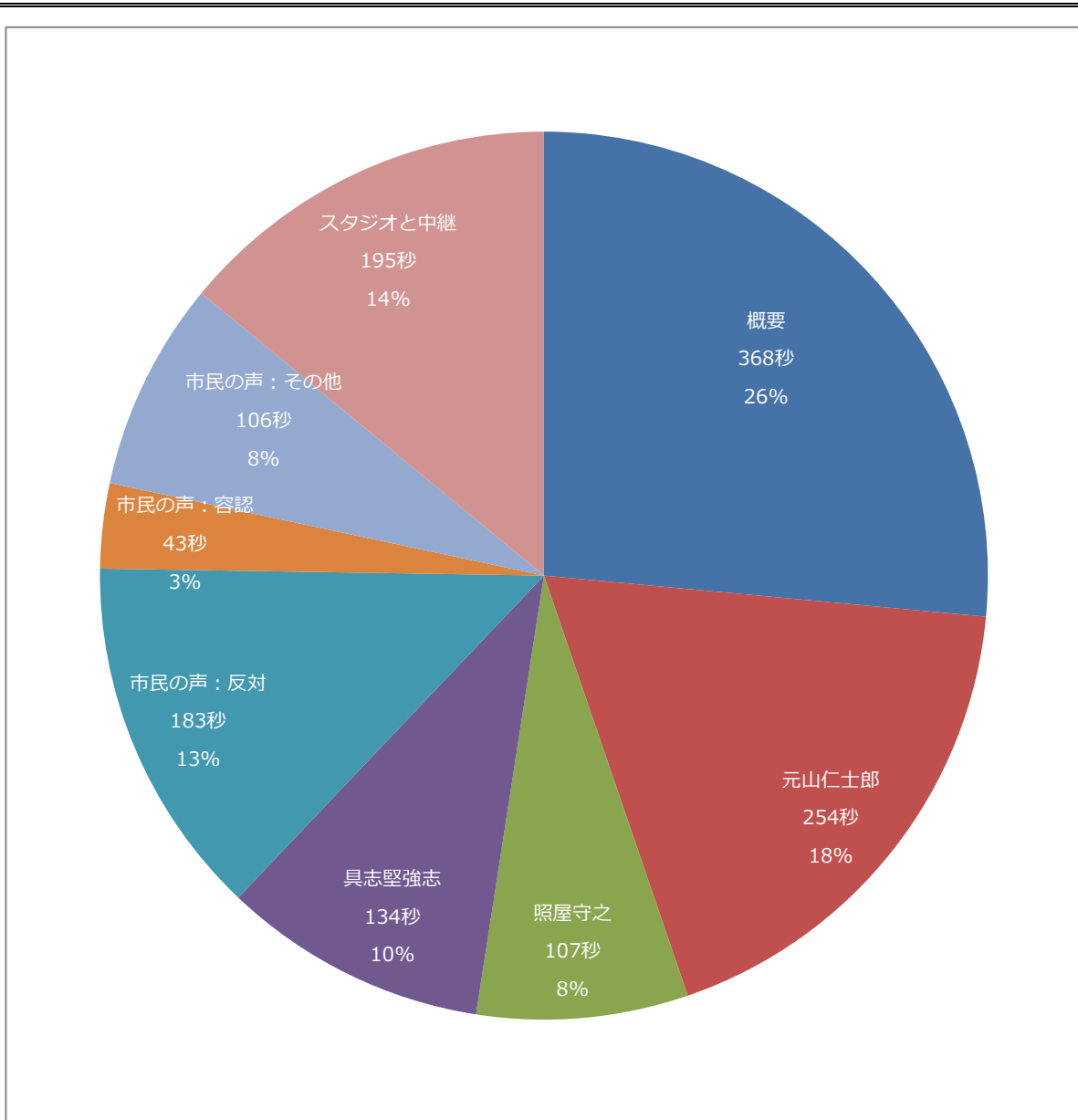
米朝首脳会談の開催地ベトナムの外務省は北朝鮮の金正恩党委員長の公式訪問を発表したこと、日程は明らかにされていないが、金党委員長が陸路でベトナム入りするとの見方が強まっているとことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 83 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・岩屋防衛大臣が自衛隊の水陸機動団を視察：結論→特に問題なし

岩屋防衛大臣が就任後初めて佐世保市の陸上自衛隊施設を訪れ、去年発足した水陸機動団の訓練を視察したこと、水陸機動団は離島の奪還作戦を担う部隊で大臣は水陸両用車に試乗し装備を確認したほか、隊員を前に「島嶼防衛の重要な拠点という自覚を持ち任務に取り組んでほしい」と訓示しましたことが報じられるとともに、水陸機動団は新たな防衛計画の大綱で抑止力強化策の一環と位置づけられているとことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 47 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】沖縄県民投票直前報告：結論→やや不十分

沖縄県民投票について特集がされていた。県民投票を呼びかけた元山仁士郎さんにスポットを当てたシーン、自民党沖縄県連の照屋守之前会長へのインタビュー、1996 年県民投票で実務を取り仕切った元沖縄県民投票推進部長具志堅強志さんへのインタビュー、県民投票で反対票を投じるつもりの方々の声、基地に容認的な声、どちらとも取れない声、スタジオと中継とのやりとりに大別された。この特集に当てられた時間は 1390 秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR では以下に朱記した様子が CM で 2 つの部分にに分けられ取り上げられた。

【シーン 1】

金平「えー今日非常に強い雨が降っています。風も吹いていますけれども。それでも埋め立て工事は、とまっています。えー去年の 1 2 月に、海に土砂が投入されて以来、えー目の前でその工事が行われていますけれども、」  
ナレ「アメリカ軍基地のための埋め立てが進む沖縄県名護市辺野古。この埋め立ての賛否を問う県民投票が明日、投票日を迎える。」

ナレ「期日前投票は、先週から行われている。」

金平「ああ言う風に県民投票の記入方法っていうのが、賛成、反対、どちらでもないっていう。」

ナレ「選択肢は賛成、反対、どちらでもない。の 3 択だ。県民投票に法的拘束力はないが、最も得票を得た選択肢が有権者の 4 分の 1 に達した場合、知事はその結果を総理やアメリカ大統領に通知することを沖縄県は条例で定めた。」

ナレ「県民の意思は、どう示されるのか。」

【シーン 2】

ナレ「あす、投開票を迎える沖縄県民投票、アメリカ軍基地のための辺野古埋め立ての賛否が問われている。告示日の14日、県民に投票を呼び掛ける一人の若者がいた。」

"若者「こんにちは。」

女性「ご苦労さん」

若者「ありがとうございます。」 "

ナレ「元山仁士郎さん、27歳、県民投票の実現に向け、10万以上の署名を集めた中心人物だ。」

元山氏「もちろん、複雑な感情を抱えてる方もいらっしゃると思うんですけども、県民みんなで、まあしっかり話をしながら、悩んで、いろいろ考えて、正直に思う一票を投じていただければと思います。」

ナレ「普天間飛行場を抱える宜野湾市で生まれ育った元山さん。通っていた東京の大学院を休学し、県民投票実現のために駆け回ってきた。賛成か反対か、議論することこそ意義があると考えているからだ。」

ナレ「去年、10月に成立した県民投票条例では、もともと賛成と反対の2択で行われるはずだった。しかし宜野湾市など5つの市が、2択では多様な民意を反映できないなどとして、不参加を表明した。」

ナレ「元山さんは、県民投票の全県での実施を求めて水や塩だけしか口にしないハンガーストライキを始めた、」  
元山さん「本当に、書面をしてくれた方々の、表情だとか、あるいは手っていうのが、もう脳裏に焼き付いているので、そういう人たちの思いを無駄にしたくないな」

ナレ「5日目で、ドクターストップがかかったが、その後事態は動く。賛成、反対に加え、どちらでもないという選択肢を加えることで、全県での実施が決まったのだ。」

ナレ「当初、不参加を表明していた沖縄市の桑江市長は、こう話す。」

桑江市長「私は、かねてから県民投票を賛成・反対、その2つでの判断というのは、かなり乱暴だなあという言い方をしておりました。複雑な思いはありながら、この賛成か、反対か、そこよりもまだ投票に行くのであれば、どちらでもないという思いを持つ人は、かなりいると思いますよ。」

ナレ「元山さんたちの活動には、全国からも支援が届いている。」

"『辺野古』県民投票の会 呉屋陽子事務局長「徳島の勝手に県民投票を応援する会のメンバーからいただいて、これ2000部いただいたんですよ。」

金平「ただで送ってきてくれたんですか？」

呉屋氏「そうなんですよ。」 "

呉屋氏「元山さんがストライキ以降、あのほんと全国の方々からいろんなご支援いただきまして、」

ナレ「県民投票告示後も、元山さんは投票率をあげようと、力を注いできた。」

元山氏「去年の今ごろは、普通に大学院でテストを受けたりとか、レポート書いてたと思うんですけど、まさかこうなるとは、夢にも見てなかったもので、まあ不思議な気持ちが半分と、まあいろいろなことをやってきたので、まあついにここまで来たなっていう感慨深さがありますね。」

ナレ「新基地建設に向けて、埋め立て工事が進む名護市、辺野古。」

金平「こういう、なんかはっきりした意思表示した人は、なんか、こういうのをついたりしてるのね。」

ナレ「かつて、アメリカ兵でにぎわった繁華街は、閑散としていた。辺野古商工会の理事を務める玉利朝輝さん。町の活性化のために、基地の受け入れを容認する立場だが、」

玉利理事「やらないほうがいいっていうのが本当の本音ですね。おそらく大差であの一反対意見はでるとおもいますよね。まあそれは、あの、まあ無意識の意識というか、賛成すると極端な話県民は、後ろ指刺されるようなね、思いになるような、そういう感情を持っているかもしれませんし。」

ナレ「長年、辺野古で反対運動を続けてきた西川征夫さん。」

"テロップ「(県民投票に) 周辺住民は行くか？」

金平「行きますか？」

西川氏「私はね、行かないと思いますね。」

金平「いかない？」

西川さん「はい、地元は意外と。まっもちろん我々は反対派は確実に、100%に近い、方向で言ってるわけですが、」

ナレ「辺野古の移設計画が浮上してから、20年余り。」

西川氏「まあ私も本来ならば、もう、体調も悪いし、もうやめたいんですよ。もうこの、運動からは、元の住民とも仲良く酒も交わしたい。しかしながらやはり、まだ政府と県とが、争っている中で、えー地元の人間としてね、まあ黙っておくわけにはいかないだろうと。」

ナレ「世界一危険といわれる基地を抱える宜野湾市。普天間飛行場に隣接するこの公園は、オスプレイの飛行ルートの下にある。県民投票に、市民は、」

市民「騒音だけじゃなくて、まあ上を通るたびに、その墜落はせんかなというよな恐怖心が入り混じっております。もう、一刻も早く、進めてこの飛行場を、閉鎖してもらいたい。撤去してもらいたい」

市民「自分のうちのそばにあるのがダメだったら、よそのところに行くのも、向こうに住んでる人たちは、嫌だろうと」

市民「反対の気持ちはありながらも、私たちはここでもう、生活してますよーってもうそこだけなんですよ。ええ、ええ、ええ。だから苦しい立場の人、いっぱいいらっしゃると思いますけど、」

市民「基地問題は、日本国全体で決めないといけないのに、まあ沖縄に二者択一ってまあ、辺野古がダメなら固定っていうのは、ちょっと違うかなーと」

金平「ここに、建設反対派の幟がたってますけども、賛成建設、賛成派の幟なんていうのは全く見当たらないですね。」

"アナウンス「辺野古建設を、」

ナレ「告示後の町の様子は、規制を重ねてきた過去の知事選とはずいぶん違う。埋め立て反対に投票するよう呼びかける運動は、活発だが、賛成を呼び掛ける運動は、ほとんど見られない。」

金平「えー自民党の沖縄県連の本部ですけども、えー県知事選の時は、ここを大変な人の出入りがあって、なおかつ、積極的にこう、投票者に投票を呼び掛けるというのはあったんですけども、今日は一階に数人の職員が詰めてただけだったですね。えーとても静かです。」

ナレ「自民党沖縄県連は、今回の県民投票で、賛成を呼び掛けるのではなく、あえて自主投票とし、あくまでも静観の構えだ。自民党沖縄県連の、前会長、照屋もりゆき県議が、その胸の内を明かした。」

"金平「見通しとしては、今回の県民投票は、どうなるっていう風に、思われてますか？」

照屋氏「やっぱりあの、反対が多いとおもいますよ。」

金平「積極的賛成っていうのは、ほんの少数ですね。そうすると」

照屋氏「いやー、だってこうやって賛成か、反対かっていわれたら反対だってすぐ言いますよ。ンフフ、当然ですよ。いやでも普天間飛行場の代替施設としての辺野古だから、やっぱり、しょうがないっていう、そういうことですよ。」

ナレ「全県での投票実現に向けた歩み寄りで、重要な役割を担った照屋氏。会長職は辞任した。」

照屋氏「この沖縄にかかる問題ですね、この沖縄県民が対立しあうという、そこは、よくないと思っているんですよ。与党も野党も県民一つになってですね、やっぱりこの問題解決を国に迫っていくと。いうふうなことに

しないと、県民同士が対立をしあうということはですね、これはやっぱりよくないと思っているんですね。ですから、そういう構図だけは作るまいと。」

ナレ「沖縄県で県民投票が行われるのは、実は二度目だ。」

"女子学生「私たちに静かな沖縄を返してください。」

ナレ「1995年アメリカへによる少女暴行事件をきっかけに、沖縄県民の反基地感情は沸騰。翌年、米軍基地の整理縮小と、日米地位協定の見直しの賛否を問う、全国初の県民投票が行われた。投票率は59%。投票者の89%が賛成票を投じた。この県民投票の実務を取り仕切った県の元幹部に聞いてみた」

"金平「これすごいなあ。なんかこれ熱気がこれ見ると、伝わってくるような。メッセージ、これ、シンポジウムとかそういうのこんなにいっぱいやってたんですか。」

具志堅氏「いっぱいやりましたね。」

具志堅氏「やっぱり大事なのは、多くの県民が、あの、投票にあってね、意思を表示をしてもらおうと。いうことだと思います。沖縄の県民は内に秘めたるものはね、ものすごくあると思っていますよ。内に秘めたるものが基地問題に対してはね。」

ナレ「23年前、明確に示された基地を減らしてほしいという意思。しかし、沖縄に基地が集中する現実、今も変わっていない。」

ナレ「告示の日、菅官房長官は、県民投票の結果に関わらず、辺野古の埋め立て工事を進める考えを示した。」

"記者「県民投票の結果がどんな結果でも、政府の辺野古移設の方針に変わりはないということですか」

菅官房長官「あのー基本的には、そういう考え方であります。」

ナレ「県民投票実現に奔走した元山仁士郎さんが今週上京した。県民投票の結果が出る前に、全国に訴えたいことがあった。」

元山氏「なんで、沖縄が県民投票というところまでやらないといけないのか。何度も意思を示さないといけないのかっていうようなところをぜひ、もう一歩考えていただいて、それを受け止めていただきたいなと思いますし、それに対して、日本に住んでいる他の地域に住んでいる人たちなりの答えというのもの、出していただければなというように思います。」

ナレ「沖縄県の玉城デニー知事に聞いた。」

玉城知事「民主主義の根幹、尊厳、そのことが問われている県民投票だというふうには思っています。まあどのような結果であれ、この沖縄県民が県民投票にかける思い、願い、その重みというものは国際社会はしっかりとみているとおもうんですね。もう国がやると決めたことは、地方自治では反論それに反論することができないのか。そこに生きている国民は何も言うことができないのかと、いうことに対する一つのまあ形を示そうと、していることですから、日本国民どこにお住まいであっても、この沖縄の状況を、しっかり受け止めていただきたいと思います。」

ナレ「投票は、あす、行われる。」

VTR を承けてスタジオと中継の間では以下に朱記したやり取りが繰り返されてきた。

膳場「ふたたび、沖縄とつながります。金平さん」

金平「はい、えー取材にあたっている RBC 琉球放送の、金城光里記者に聞きます。ずばり聞きますけれども、盛り上がりはどうなんでしょうか。」

金城記者「はい、昨日までの期日前の投票率なんですけど、16.46%となっていて、前回の県知事選挙の同じ期間と比べますと、およそ半分程度にとどまっているんです。この動きが鈍い背景としては、今回自民党が静観という立場をとっていることが一つの要因と、言えます。自民党関係者からは、参議院選挙など、今後の選挙を見越して、

表立って動くことで、今後批判を受ける。受けたくないというのが本音も見え隠れしていて、賛否を巡る議論というのは、深まったとは言いきれません。一方、住民からは、普天間基地の危険性はどうなるのか、単純に賛成か、反対かでは決められないといった複雑な声も聴かれました。こうしたことが期日前投票の得票率が伸びていない一因になっているのかもしれませんが。」

金平「金城さん取材してきてですね、この県民投票の意義ですね、何が問われてると思いませんか？」

金城記者「はい、今回は投票率だったり、どちらの選択肢が、多数を占めるかが、県民の選択として注目されています。しかし沖縄はこれまでも、国政選挙ですとか、県知事選挙で辺野古の賛否という民意は示してきているんですが、政府による工事は進められています。日本の安全保障という本来であれば、全国で議論されるべき問題が、なぜこの沖縄で今、住民投票という形で問われなければならないのか、国民一人一人が問われているのではないのでしょうか。」

膳場「金平さん、東京ですけども、金平さんは取材をする中で、何を一番強く感じましたか？」

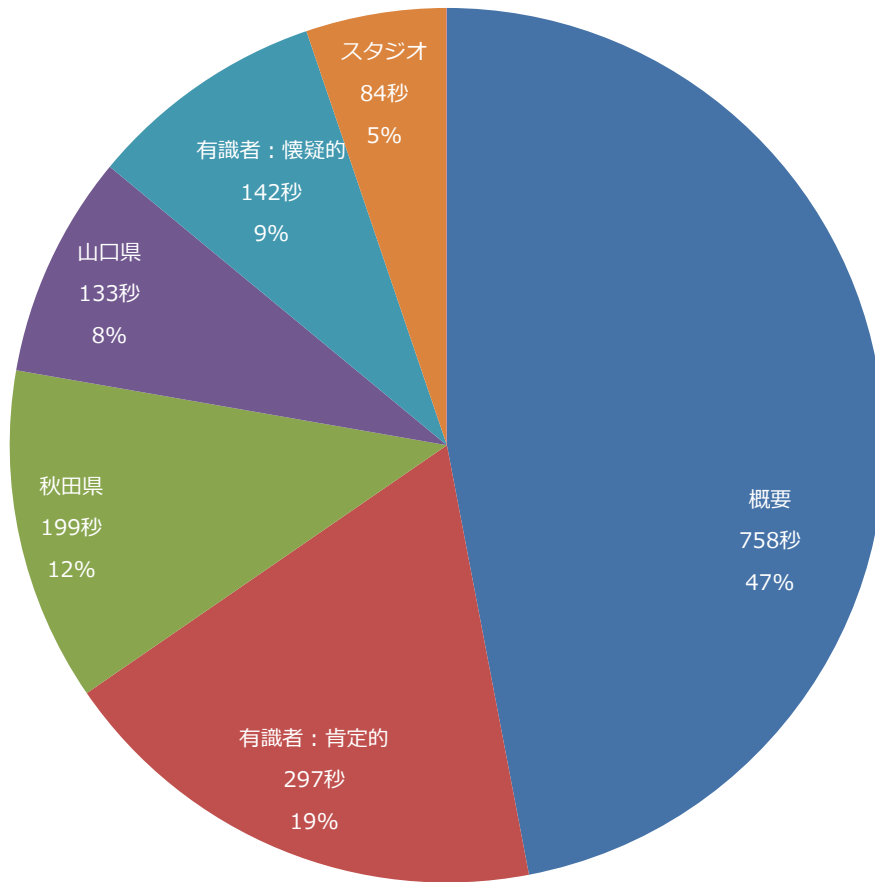
金平「あの一、VTRに出てきた元山仁士郎さんたち若者の世代がですね、必死に動いて、えー県民投票をとにかく実現させたってことは大きいと思いますですね。日本の他の都道府県でこんなにエネルギーがあることは無いとおもいますね。元山さんの言葉を借りますと、えーどのような結果が出ようが、県民の意思を示すこと自体が、大事なんだというわけです。えーここまで県民投票に至る過程にですね、実はいくつもの問題点が出てきました。えーマヨネーズ状といわれる軟弱地盤が工事海域にあることが分かって、これは工事計画全体のそもそものコンセプトを変えかねないという非常に重大なことです。もう一つは、海中に投入された土砂の成分が、勝手に変更されていて、赤土が混入しているのではと、県が懸念を表明していることです。えーこれらの事柄は、国、政府が、県民に対してきちっと、説明しているとは思われません。政府がお決まりのように口にしている、県民に寄り添うとはいったいどういうことなのでしょう。えー投票率も気にかかる場所ですけども、それがどうであれ、示された民意を真摯に受け止めることが必要だと思えます。以上沖縄からお伝えしました。」

沖縄についての特集であったが、スタジオや中継で散々「国民一人一人が問われている」だとか「テレビの前のみなさんが本当は問われている」と問題提起する割には、特集では徹頭徹尾沖縄現地の様子のみ取り上げ、肝心の沖縄以外に住む国民がこれをどう受け止めているのかということについては全く取り上げられなかった。沖縄が数々の選挙や二度に渡る県民投票で民意を示し、問い掛けをしている、というのであれば、そうした問いを受けてのこの現実こそが、まさに沖縄以外に住む日本国民の「答え」なのではないだろうか。

その答えは玉城デニー知事や元山仁士郎氏あるいは金平キャスターの望むものとは違うのだろうが、この現実を続けてきた本土側の住民の意識にも切り込まねば、片手落ちということにはなってしまうだろうし、なにより「本土側も問われている」と銘打っておきながら、本土の国民が出し続けた「答え」に触れないというのは取り上げ方としてはアンフェアであり、また争点・論点の深掘りが不十分という意味でも、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」および同四項の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。」という点では不十分なものであった。

#### ・【特集】独自取材最強のイージス

イージスとイージス・アショアについて特集で取り上げられていた。概要及びイージスへの取材、肯定的な有識者の見解を取り上げた場面、秋田県内の受け止め方、山口県内の受け止め方、イージス・アショアの導入に懐疑的な有識者の見解を取り上げた場面、スタジオでのやり取りに大別された。この特集に当てられた時間は1613秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR では CM によって 2 つに分けられていたが、以下に朱記したように取り上げられていた。

【VTR 1】

ナレ「会場の霧を破って朝鮮半島に向かう巨大な航空母艦。北朝鮮との軍事的な緊張が高まる中、長崎県沖に姿を現したアメリカの空母、カール・ビンソンだ。空母は一隻 1 兆円。およそ 90 機の艦載機を含めると、2 兆円近くになる。アメリカは 11 隻を保有。常に 5 隻を展開させている。潜水艦や偵察機で、周辺海域を徹底的に搜索。上空からは偵察衛星で監視し、半径 300 キロの制海権を完全に掌握しながら動く。空母護衛の要は、防空能力が高いイージス艦だ。」

ナレ「イージスの名前はギリシャ神話に由来する。都市の守護神アテナが持つ武器が万能の盾、イージスだ。」

ナレ「日本が保有するイージス艦は 6 隻。横須賀、舞鶴、佐世保に配備されている。」

ナレ「日本の弾道ミサイル防衛は、まずイージス艦が大気圏外で迎撃し、うち漏らした場合、陸上のパトリオットが、大気圏内で迎撃するというシステムだ。」

ナレ「3 カ月以上も洋上で弾道ミサイルの監視にあっていたイージス艦きりしまに、報道特集のカメラが乗り込んだ。畳 8 枚分の面積のスパイレーダー。イージス艦の目だ。半径 500 キロ以上、360 度どの角度の飛行物体も 1 万分の 1 秒、瞬時にとらえる。垂直発射のミサイル 80 発を搭載し、20 近い目標への同時攻撃が可能だ。エンジン 1 基の出力は、ジャンボ機と同じ、2.5 万馬力。4 基で合計 10 万馬力。10 万世帯を賄える発電能力もある。イージス艦の心臓部、CIC 戦闘指揮所だ。秘密保護法と、日米の相互防衛協定により、ごく限られた乗組員しか



立ち入りが許されない。スクリーンに朝鮮半島がくっきりと浮かび上がる。」

"ナレ「ミサイルの迎撃訓練が始まった。」

艦内放送「弾道ミサイルが発射されました。」

乗組員「代 BM 戦闘用意」

乗組員「対 BM 戦闘用意」

艦内放送「スパイレーダー弾道ミサイル探知」

艦内放送「弾道ミサイルは日本本土へ向け飛翔中です。司令部から迎撃命令発令」

乗組員「弾道ミサイルの迎撃を行います」

乗組員「対 BM 戦闘 SM3 攻撃はじめ」

乗組員「エンゲージ SM3」

艦内放送「発射 5 秒前、3、2、1 SM3 発射。」

艦内放送「インターセプト 10 秒前、5 秒前、スタンバイ、マークインターセプト、ターゲットキル。」

乗組員「弾道ミサイルを撃墜しました。」

乗組員「SM3 攻撃やめ」

艦内放送「s m 3 攻撃やめ」

艦内放送「弾道ミサイル撃墜、」 "

ナレ「発射を探知してから迎撃まで、わずか数分間。この凝縮された時間が、ミサイル防衛の現実だ。」

"西村艦長「当初は、本当に艦隊防空の船ということでまあ我々は私も認識してましたけど、全くかわりましたですね。」

記者「ここで技術的に 100%大丈夫なんですか？」

西村艦長「100%大丈夫です。言いたいところなんですがね。まあそのためもあって、万が一ということでまあ、航空自衛隊のペトリオットがあるんですけども、」 "

ナレ「安全祈願の神棚もある。」

"遠山氏「だいたい射撃の前にはですね、ここにお賽銭を入れてみんなで拝んでいます。」

記者「賽銭もするんですか？」

遠山氏「賽銭もしますね。はい。」 "

ナレ「乗組員は 300 人。長い航海での一番の楽しみは、食事だ。海上自衛隊の料理学校の出身者が作る料理は評判がいい。」

隊員「船に乗ってて楽しみなのはもう、やっぱり食事ですね。食事が一番楽しみですね。」

ナレ「彼は、高校を卒業したての 18 歳。これからイージス艦の乗組員としての、意識が刷り込まれることになる。」

"ナレ「巨大な錨があげられる。」

隊員「せんかーい」

隊員「壁左 30 度から 10 ノット。」

隊員「壁左 30 度から 10 ノット。」 "

ナレ「在日アメリカ海軍と共同使用の横須賀基地をきりしまが出港する。この海域では、過去にイージス艦や潜水艦が釣り船と衝突する事故が起きている。緊張が高まる。」

"隊員「ビルとあとととかん水あき 700。奥しようとは漁船。」

隊員「了解」 "

ナレ「きりしまが、ある場所に向かう。この後、史上最強の護衛艦の無防備な姿をカメラがとらえた。」

## 【VTR 2】

ナレ「史上最強のイージス艦きりしまが到着したのは、造船所だ。イージス艦は1年に1回、3か月の定期点検でドッグに入る。これが最強の護衛艦の丸腰の姿だ。乗組員も造船所に宿泊し、民間の技術者とともにメンテナンスにあたる。船底まで入念な点検が続く。」

"記者「船自体も相当いたんでということですか？」

西村艦長「あっそうですね、やっぱりですね、スパイレーダーを外にずっと使っているというか送信しているの、それが通常の訓練のやってる年と比べてやっぱり、格段に多いというのが、特徴ですね。」

ナレ「フジツボなどが落とされていく、大量の付着物は速度や音波探知の性能を妨げる。洗浄作業は深夜まで続いた。」

ナレ「イージス艦に関しては、造船所側も機密保持に神経質だ。技術者の顔をアップで撮影しないでほしいなどの細かな要請があった。実は選対の前方には巨大なソナー音波探知機、後方には5枚の羽根が付いたスクリーンが2基あるが、撮影はシャットアウトだ。専門家が見ればイージス艦の能力が一瞬にして分かってしまうという。1万トンの船体をつなぐ錨、重さ6トン、長さは300mある。きりしまの隣には、来年3月就役予定のまや。イージス艦が2隻並ぶ極めて珍しい光景だ。造船所はさながらビルの建設現場だ。いたるところが幕で覆われ、何の作業が行われているのか、うかがい知れない。」

"記者「イージスシステムの秘密が漏れるというのは、どうですか？」

小野館長「漏れることは完全にこわいですね。」

記者「それは隊員に教育とか、してるんですか？」

小野館長「そこはしっかりしております」

記者「秘密の塊」

小野艦長「秘密の塊ですね、はい」

記者「これミサイルは何発くらい積んでんですか。今」

小野艦長「その数はですね、あの現時点ではわかりません。わかりませんというか、言えないですね。」

ナレ「この造船所では、8番艦の建造が始まっていた。2021年までにイージス艦は8隻体制になる。一隻の維持費は年間100億円にも上るといふ。イージスシステムはアメリカ海軍が独自に開発したものだ。スパイレーダーやコンピューターシステムなどには、ブラックボックスが存在し、日本側が手を触れることはできない。アメリカの武器技術による支配の一端がうかがえる。」

ナレ「1991年、日本初のイージス艦、こんごうが進水した。アメリカが日本にのみ、建造を認めたのだ。当時アメリカでは、根強い反対論があった。」

"伊藤氏「あのアメリカ国内でもすごい一大議論だったんですね。特に国家のいわゆる議会で。こんな秘密の塊を出していいのかとそれぐらいすごいものなんですよ。でも、日本はいいということで、日本だけが認められたんですね。日本の安全にアメリカの国内で使うのと、まったく同じレベルなんですね。」

記者「イージス艦が？」

伊藤氏「はい、イージス艦そのものが」

伊藤氏「でも他の国のものは、ちょっとスペックダウンしてるんですよ。」

ナレ「議会の反対を退けたのは、東西冷戦だった。」

古庄氏「当時のソ連海軍の、太平洋艦隊の船でもですね、駆逐艦でも、巡洋艦でも、全部 対艦用のミサイルを積んでましたからね、アメリカのその艦隊を、守るために、洋上防空、艦隊防空をどうするかってね、やっぱり日

本の、その日米安保の中で、海上自衛隊とそう組むかってことがあったと思いますね。」

ナレ「日本のイージス艦は、アメリカの艦隊、特に空母を守るために導入されたのだ。進水式にはかなわずアメリカ海軍の幹部が立ち会う。イージス艦はまさに日米同盟の象徴なのだ。」

ナレ「日本初のイージス艦、こんごうの初代艦長、本多宏隆氏。イージス艦を知り尽くした人物だ。運用してみてもイージス艦の能力は想像をはるかに超えていたという。」

本多氏「水上射撃の訓練をやっている場所の近くを通ったんですよ。そうしたらですね、スパイレーダーがですね、弾丸を捕まえるんですよ。ピーッピーって飛ぶやつを。」

ナレ「演習でも、戦闘機に対する圧倒的な優位を証明した。」

"本多氏「空自の航空機を全部落としちゃったんですよ。」

記者「想定の中で？」

本多「そう想定の中で演習で、はい、突っ込んできます。はい落としました落としました。そうしてやってたら、空自の幹部からですね、幕僚から、イージス艦は日本に飛んでくる爆撃機等は全部落とすのかって言われたんで、それはその場において、射程内にいけば落としますよと。」 "

"ナレ「就役直後から北朝鮮上空を監視していたことを明かした。」

本多氏「あのはっきりいってですね、関門海峡をへっと出て、そうしたらもう朝鮮半島の上あの辺飛んでる飛行機は全部わかりますよ。はい」 "

ナレ「1998年、北朝鮮の弾道ミサイルが、日本列島を飛び越え、三陸沖にまで達した。この航跡を日本海にいたイージス艦みょうこうがとらえていた。この時本多氏は、司令として、みょうこうの艦内で指揮を執っていた。」

"本多氏「で、今、北朝鮮のあげたミサイルが日本の上空を通過したと、えーっと7、8分でしたかね、あれ、」

記者「その時、日本列島に陸地に落ちたら大変でしたよね、あれ。」

本多氏「いや、そりゃそうですよ。で撃ち落とす能力がありませんから、」 "

ナレ「事態は、直ちに東京に報告された。が情報は極秘にされた。政府が受けた衝撃があまりにも大きすぎたのだ。」

ナレ「これを契機に、イージス艦の任務は大きく変化していった。」

古城氏「北のミサイルだとか、いろんな陸から発射して、アメリカ本国を狙うようなミサイルまでできてくる中で、それを洋上で落とす必要があるんじゃないかって、言うのが出てきて、今のその、弾道弾を、いかにまあ、途中で落とすかって方向に変わっていった。」

ナレ「そのイージスが今、陸に上がろうとしている。」

ナレ「北朝鮮のミサイル発射が頻発する中、政府はおとし12月、イージス・アショア、地上配備型迎撃ミサイルシステムの導入を閣議決定した。米朝首脳会談で、緊張緩和の兆しが見えても、政府はなお、イージスアショアの導入を進めている。」

ナレ「建設候補地は秋田県と、山口県の2か所だ。イージスアショアの探知能力は2000キロ以上、2基で日本列島全土のミサイル防衛が可能とされる。」

ナレ「夏の甲子園での金足農業の活躍に沸いた秋田市。」

"女性「絶対、この秋田には基地はいらないというこの心意気で、」

ナレ「このころから、イージスアショア反対の横断幕が、目立つようになった。防衛省が目をつけたのは、日本海に面した陸上自衛隊、新屋演習場だ。」 "

ナレ「住宅密集地が隣接する。小学校、中学校、高校も目と鼻の先だ。地元の議員もあまりにも住宅地に近すぎることに、驚きを隠せない。」

"自民党県議会議員「近いですもん。もう本当に、結構近いところで100何十メートルですから。あまりにも近すぎますよね。」

社民党県議会議員「どこの世界に県庁所在地から、3キロ以内にそういうね、打てるようなものを、置かせる、知事がおりますか。」 "

ナレ「そんな中、知事のこの発言が飛び出した。」

秋田県佐竹知事「あれ全部アメリカですよ。日本国内に、だってあんまりいうとね、秋田と山口、これ東京を狙うね、あのミサイル、あれにね、当たる確率、低いんですよ。」

ナレ「真偽を含めて物議をかもした知事の発言。イージスアショアには、アメリカ防衛の側面が強いことを示すものだった。」

古庄「これはもう、誰が何と言っても、アメリカはアメリカ。自国の為。」

ナレ「防衛省が説明会を開くが、住民との溝は深まる一方だ。」

住民「あなたがたの調査に決定的に抜けていることがあります。周辺の住民が、それだけの被害を被るのか、そういういわゆる生活環境調査がですね、欠けている。北朝鮮の弾道ミサイルはまず、秋田に飛んでくるでしょ。一茶市を狙って。」

伊藤局長「で、このイージスアショアは、そのミサイルから守るための国民の皆さんを守るための、皆さんをふくめた秋田の方を守るための、国民の皆さんを守るための、非常に弾道ミサイル防衛のための、」

住人「局長、ちょっと待ってくださいよ」

住人「いるっていう前提で、私は、すぐそばに住んでいるんですよ。親の世代っていうのは、戦争できて、だからやっぱり今の平和が、一番大事っていう風に、教わって育ったんですよ。」

住人「まあ国の専権事項っていう考え方ね。それはね、あの一市民無視ですよ。戦前の考え方ですね。」

住人「これ矛盾、盾と矛。どっちもどっちでやっていく限り、どんどんどんどんエスカレートするわけですよ。これをどっかで止めないといけないはずなのに、なぜかどんどんどんどん」

ナレ「明治維新150年で連日多くの観光客が訪れる山口県、萩市。最新鋭の兵器はこの城下町にもやってくる。市の中心地から車で40分。のどかな田園地帯が広がる。水脈が多く、地下水が豊富な地域だ。この水を使った稲作も盛んだ。突然、田園風景には不似合いな看板が次々に現れる。近くに基地建設の候補地、陸上自衛隊、むつみ演習場があるのだ。」

町長「この町民の安全、安心を、脅かすものを排除するのは、町長であるわたくしの当然の責務である。」

ナレ「安倍総理のおひざ元、山口県では、萩市の隣町、阿武町の町長が猛然と建設に反対した。彼は自民党員でもある。」

町長「イージス・アショアを呼び込んだら、お金でももらえるって勘違いしたっていうのか、交付金でも増えるって勘違いしていらっしゃるのかな？」

ナレ「町は、都会からの移住者を増やす、Iターン政策が成功している。」

阿武町 花田憲彦町長「まあ要するにミサイル基地ですよ、迎撃ミサイル基地。ができて、できるということになると、私がイメージしていた町と変わったものになるんです。だから申し訳ないお世話になってけれども、私はこれができるということになれば、このまちから出ていくしかありませんっていうんですよ。Iターン政策も今うまくいっている。財政もうまくいっている。なんでそこにそんなもの求めなくちゃいけないんですか。」

ナレ「秋田、山口の候補地は2か所とも自衛隊の演習場だ。用地買収の必要がない。建設は性急すぎるとの声が強い。防衛省内部でも、イージス・アショアの導入に疑問を調べる幹部は少なくないという。1年半前まで、陸上自衛隊、武器学校長だった市川文一氏もその一人だ。」

市川市「100 発持ったとしても、北朝鮮、数百発と言われてますので、もう、これ全て撃ち落とすことはできないわけですね。ええ、ですからあくまでもこれはですね、イーゼス・アショアを導入するというのは、やはりあの北朝鮮が、何度も繰り返しミサイル発射をするという国民の不安感を無くすというのが、大きな目的だと思いますね。米朝会談の行方をきちっと見定めてですね、導入を検討すべきだろうなとて言う風に私は思います。」

ナレ「価格は、当初の見積もりを大幅に上回り、2 基で 5 0 0 0 億円。専門家の養成などを含めると、さらに莫大な費用が必要とされる。市川氏は通常の新兵器導入に比べて非常に短期間で決定されたと指摘する。」

市川氏「制服組の中で、いわゆる防衛力をいかにすべきかというのをしっかり決めるとして、最低でも 1 年、2 年かかるわけですね。その行為をする期間というのが、なかったように思われるんですね。もっと大きな政治的な枠組みの中で、導入されたという可能性は、これはあの、否定できません。」

ナレ「山口県萩市のむつみ地区には、すでに連絡事務所を開設されている。そして去年 1 2 月には、秋田と山口の候補地で、ほぼ同時にボーリング調査が開始された。2 0 2 3 年のイーゼス・アショア完成に向けて、一挙に動き出した。」

ナレ「長崎県佐世保基地。2 回目の米朝首脳会談開催が発表された直後も出港準備を整えたイーゼス艦が待機していた。そして在日アメリカ海軍の司令部には、朝鮮戦争が今もお休戦状態であることを示す国連旗が翻っている。」

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記舌やり取りが繰り返されられた。

膳場「取材にあたった巡田記者です。イーゼス・アショア、評価も割れる中、何と言っても、高いですね。」

巡田記者「高いですね。えーとイーゼス・アショアですね、2 基で 5 0 0 0 億円、あの、あの 1 発 3 0 億円から 4 0 億円といわれるミサイルが、あのー入っておりません。それに運用にあたる専門家などの教育費もはいつておりません。さらに膨らむものとみられますね。それであの空母導入が決まったんですけども、搭載機は一基おおよそ 100 億円。えー垂直離着陸 42 機を含む 140 機体制に決定してますね。あの専用のパイロットなどの養成にはさらに 10 年かかるといわれています。」

日下部「あのーイーゼスの盾っていうのは、一体、誰を守るための物なのかなと思いついてたんですけども、イーゼス・アショアは言われるように、北朝鮮のミサイル対応だけのものなんですか？これ。」

巡田記者「いい質問ですね、あの、探知能力が 2 0 0 0 キロっていうのは、平壤まで 120 キロですから、さらに、その奥、やはり中国だと思いますね。それからあの、日米同盟がですね、今、日米同盟からもう日米一体化を思わせるぐらいこう、加速してるんですね。だからイーゼス・アショアの背景にはですね、やっぱりあのアメリカの世界戦略がバックにあると思いますね。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

・特集の取り上げ方について：結論→高く評価できる

今回は前半の特集で安全保障と沖縄を取り上げ、後半ではイーゼス・アショアに関連して秋田県や山口県が取り上げられるといった具合になっており、安全保障というテーマで特定の県のみがクローズアップされるというこれまでの特集の組み方と比べると、これまでクローズアップされてこなかった部分も取り上げられており、改善が見られていると評価できる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】独自取材最強のイーゼス：結論→やや問題あり

イーゼス・アショアの導入について膳場キャスターの「取材にあたった巡田記者です。イーゼス・アショア、

評価も割れる中、何と言っても、高いですよ。」というコメントに対して、巡田記者が「高いですよ。えーとイービス・アショアですね、2基で5000億円、あの、あの1発30億円から40億円といわれるミサイルが、あのー入っておりません。それに運用にあたる専門家などの教育費もはいつておりません。さらに膨らむものとみられますね。それであの空母導入が決まったんですけれども、搭載機は一機およそ100億円。えー垂直離着陸42機を含む140機体制に決定してますね。あの専用のパイロットなどの養成にはさらに10年かかるといわれています。」と応えていた。

イービス・アショア2基で5000億円という金額を「高い」と印象づけたいかのようなシーンであるが、5000億円という金額だけ見ると高そうに感じるかもしれないが、その金額の規模感は政府予算の1%にも満たないものである。

イービス・アショアは個人での買い物ではなく、政府が導入するものであるのだから、その金額の規模感についても政府予算の規模に触れたり、他の費目での支出がどの程度なのかということに言及したりして、ある程度の相場観を示す必要があるだろうし、そうしたことを欠いて、単に「高い」というだけでは、そうした印象を増幅させかねない恐れのある報道構成となってしまうだろう。

#### 検証者所感

##### ・【特集】独自取材最強のイービス

スタジオでは日下部キャスターの「あのーイービスの盾っていうのは、一体、誰を守るための物なのかなと思いつながら見てたんですけれども、イービス・アショアは言われるように、北朝鮮のミサイル対応だけのものなんですか？これ。」という問いに対して巡田記者が「いい質問ですよ、あの、探知能力が2000キロって言うのは、平壤まで120キロですから、さらに、その奥、やはり中国だと思えますね。それからあの、日米同盟がですね、今、日米同盟からもう日米一体化を思わせるぐらいこう、加速してるんですね。だからイービス・アショアの背景にはですね、やっぱりあのアメリカの世界戦略がバックにあると思えますね。」と応えていた。

このアメリカの世界戦略という視点は重要であり、日本にとっての唯一の同盟国であるアメリカの世界戦略に日本はどう向き合うべきなのか、という点はもっと議論がされてもよいのではないだろうか。